

カイコに学ぶ

秋山 幸也

※相模原市立博物館学芸員



その1
カイコって
どんなむし？



①特別な生きもの カイコ

カイコは虫です。昆虫の幼虫です。そして、成長するとガになります。イモムシと言ってもよいでしょう。でも、モンシロチョウやアゲハチョウのイモムシとはだいぶちがいます。なにがちがうかというと、**カイコは人間が育ててあげないと生きられない生きものなのです。野生では生きることができません。**でも、そんなカイコですが、人間がしっかりと世話をして、大事に育ててあげると、とてつもなくすごいことをしてくれます。それが、カイコという虫なのです。これから、カイコという虫について、そして、カイコと人間との関係について、お話していきます。



カイコの幼虫ようちゅう



キアゲハの幼虫ようちゅう

②人間がつくりあげた昆虫

カイコは人間がつくった昆虫です。なぜ人間がわざわざカイコをつくったのでしょうか。それは、人間が生きていくために必要な3つのことと関係があります。その3つのことは「衣食住」という漢字で表されます。「衣」は、衣服をまとうこと、「食」は食べること、「住」は家に住むことです。このどれが欠けても、人間は生きていくことができません。人間が体温を保ち、活動するためには、この3つがどうしても必要なのです。そして、この3つを産み出す仕事を、農業と言います。

カイコは衣食住のうち、主に「衣」に関わる虫です。カイコが作り出す繭は、1本の細い糸（繊維）を固めたものです。これをいったんほぐして、さらにこれを強くするために、十数本を束ねてよじったものが糸です。この糸を織って、布ができます。この布を、絹と呼びます。



絹は軽く、光に反射して輝くため、とても高級な布として世界中の人に愛されています。カイコの繭を原料としたこの布は、何千年も前から使われてきました。つまり、カイコは何千年も前から人間が育ててきた昆虫なのです。その間に、たくさんの糸が取れるように、丈夫に大きく育つように、カイコは人間が作り上げてきたのです。

しょうけん さいと
正絹と生糸



③カイコの先祖

カイコは何千年も前から人間に育てられてきましたが、さらにそのむかし、野生に生きていた先祖がいるはずですが、カイコの先祖がどんな虫だったかはまだよくわかっていませんが、カイコと先祖が同じ野生の昆虫はわかっています。それは、クワコというガのなかまです。

クワコはあまり目立ちませんが、私たちにとって身近な昆虫です。クワコとカイコのちがいや似ているところについては、改めてお話ししたいと思います。まずは、カイコという不思議な昆虫と人間のかかわりについて考えていきたいと思います。

ようちゅう
カイコの幼虫



ぜいちゅう
カイコの成虫

ようちゅう
クワコの幼虫



ぜいちゅう
クワコの成虫

→その2

カイコを飼うこと - 農業という仕事 -